



たまごの

第157号

令和8年10月1日発行

 発行所／一般社団法人
 長崎大学玉園同窓会
 〒850-0029
 長崎市八百屋町36番地
 TEL 095-824-5494

 発行人／安部 和隆
 印刷／株式会社 岩永印刷所

巻頭言 ～ 創立140周年を迎えて～

玉園同窓会 会長 安部 和隆



すべての会員の皆様とともに、長崎大学玉園同窓会の記念すべき時を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。本会は、1886年（明治19年）県師範学校卒業生の吉田氏、永瀬氏のお二人が呼びかけ、23人で会を発足したことが起源と言われます。同年、師範学校令が出されたばかりの状況の中で、会員同士の親睦と指導力向上を目指し、卒業生が力を合わせ、いち早く組織を創出した先達の先見の明と行動力に敬意を表します。

以後、明治、大正、昭和、平成、令和と時代は移り、名称や組織は一部変わりながらも、140年という長きにわたり、同窓会は存続してきました。幾多の危機や苦勞を乗り越えながらも本会が継承できているのはなぜでしょう。それは、時代は変わろうともすべての会員の皆様が、母校、長崎大学教育学部（学芸学部）に対する誇りと愛を持ち続けてこられたからではないでしょうか。ここでは、その中でも本会にかかわる大きな2つの出来事を取り上げます。

まずは、81年前、原爆により師範学校の多くの尊い学生や教職員の命がなくなりました。その中にあって、同窓生の方々は、長崎大学教育学部の皆様と協力して大学正門横に慰霊碑を建立し、平和祈念のよりどころとして戦後の復興に努めてきました。

次に、今から12年前、本同窓会は、大学の一同窓会としての組織から、一般社団法人へと大きく変化しました。以前との一番の大きな相違点は、毎年、総会を開催しなければならないことです。毎事業年度終了後3か月以内に総会を開くことが定められま

した。そのため、県内の各学校や教育委員会等の担当の皆様には、年度初めの多用の時期に大変ご迷惑をおかけしております。

会員一人一人に委任状への記名をお願いしてまわり、取りまとめを送信していただくなど、ていねいなご対応に感謝いたします。終身会員や一般会員の方々には、「会のますますの発展をお祈りします。」等の嬉しい一言を小さな葉書に添えていただき、事務局一同、温かな気持ちになります。おかげさまで、ご出席いただいた方と集まった委任状で会員の過半数を超え、総会も何とか成立できているところです。

今年の総会は、140周年に因み、久しぶりに懇談会を実施しました。遠くは、熊本県から参加してくださる方もいらっしゃいました。一人一言の場では、教育学部の取組の紹介や学生時代の懐かしい話、寄付を申し出る方等の貴重な声もありました。会終了後の感想には、「事務局の企画・運営のおかげで一気に雰囲気や和やかになりました。」「来年もこんな会ができるといいと思いました。」等がありました。改めて本同窓会のよさをつなぎ、親睦を図るよい機会となりました。

同窓会としましては、今後もさらに大学との連携を図りながら、教育学部生へのかかわりを継続したいと思います。そのためにも、会員の皆様のご協力が必要です。どうぞ母校の後輩と本同窓会に対する温かなご理解とご支援を継続して賜りますようよろしくお願い申し上げます。

目次 < 新人特集 >

P1	【巻頭言】	安部 和隆
P2	【新任教員になって】	作元 心寧、今村 悠斗、上野 克樹、造酒 明音
P3	【新任教頭になって】	福岡 圭三、松本 隆男
P3	【新任校長になって】	畔崎 洋一、川口 洋一
P4	【教育学部へ入学して】	蒲原 凜子、辻 嘉乃、野田 香菜乃
P4	【教員採用セミナーを受講して】	渡部 純、藤田 侑希、竹村 陽人
P5	【母校だより】	藤本 登
P6、7	【令和8年度総会報告、令和7年度収支計算書、令和8年度収支予算書】	
P8	【事務局だより】	

新人特集

～ 教員になって～

作元 心寧 (R 8 年卒・久田小学校 教諭)



私は、学生時代、学部での学びに加え、部活動やアルバイトなどの様々な経験を通して、「何事も楽しむこと」の大切さを学びました。その経験は教員になった今も、何事にも挑戦する心の支えになっています。

教員 1 年目として迎えた 1 学期。毎日が初めてのことばかりで、不安や戸惑いを感じる日々でした。そんな毎日を支えてくれたのは、周りの先生方と子供たちの存在です。先生方は、分からないことや悩みを相談すると、親身になって教えてくださいます。また、子供たちへの関わり方や、一人一人に寄り添う温かい声掛けなど、日々の姿からも、教員として大切なことを学んでいます。そのような温かい環境のおかげで、楽しく前向きに仕事に

取り組むことができています。

また、子供たちと過ごす中で、教員という仕事には、想像していた以上の喜びや、やりがいがあることに気がきました。昼休みに一緒に笑いながら過ごす時間、子供たちの何気ない一言、少しずつ成長していく姿に触れるたび、教員という仕事を選んでよかったと心から思います。

まだまだ学ぶことは多くありますが、「何事も楽しむ」気持ちを大切にしながら、子供たちとともに成長していくよう日々精進していきます。

～ 教員になって～

今村 悠斗 (R 8 年卒・石田中学校 教諭)



教員になってから約 4 か月、あっという間に 1 学期が終わりました。新しい環境で始まった生活もあり、初めは戸惑うことも多くありました。慣れない業務を行いながら、生徒たちとの関係を作り上げていくことの難しさを感じました。うまくいかないことばかりで、自信が持てず、自分の力のなさを痛感し、悩むこともたくさんありました。

その一方で、生徒の成長を見ることができたときに喜びを感じたり、周りの先生方の支えを受けながら働く中で、自分自身の成長を実感したりするなど、教員としてのやりがいもたくさん経験できた 1 学期でした。

働き始めて思うことは、私はまだ教員 1 年目ですが、

生徒にとってはほかの先生と同じ一人の先生であるということです。だからこそ、生徒の前に立ち、話をしたり指示をしたりするときに、生徒たちに不安感を与えないように、自信を持って話をすることの重要性を感じるとともに、責任を持って教員という仕事に向き合いたいと改めて決意しました。

まだまだ教員としては未熟ですが、生徒たちの成長を見守り、支えながら自分自身も生徒とともに成長していくことができるように、これからも学び続けていきたいと思っています。

～ 教員になって～

上野 克樹 (R 8 年卒・五島南高校 教諭)



高校教員として勤務を始めてから、日々多くのことを学びながら過ごしています。大学で学んできた知識や教員を目指して努力してきた経験を生かし、生徒の前に立つことに期待を抱く一方で、実際に教員として働き始めると、授業づくりや生徒との関わり方などで悩むことも多く、自分の力不足を感じる場面がありました。

しかし、生徒と日々関わる中で、彼らが少しずつ成長していく姿を見ることに大きなやりがいを感じています。授業で生徒が理解を深めたり、苦手なことに挑戦したりする姿を見ると、教員という仕事の責任の重さと同時に、その魅力を実感しているところです。

一人ひとりの考え方や進路、抱えている悩みも大きく異なるため、生徒をよく理解し、それぞれに応じた関わり方を考えることの大切さも学びました。

また、周囲の先生方から多くの助言や支援をいただきながら、授業や生徒指導について学ぶ毎日です。未熟ではありますが、生徒の成長を支え、生徒とともに学び続けることのできる教員を目指し努力したいと思います。そしてこれからも日々の実践を振り返り、学び続ける姿勢を大切にしながら、生徒一人ひとりに寄り添える高校教員として研鑽を積みみたいと思います。

～ 教員になって～

造酒 明音 (R 8 年卒・佐世保特別支援学校 教諭)



知的障害教育部門の中学部 1 年の担任になり、約 4 か月がたちました。1 学期はあっという間で、慣れない環境に戸惑ったり、不安になったりすることも多くありましたが、とにかく楽しく、やりがいを感じています。生徒の指導や支援を行う中でも、悩み、諦めそうになるときがありますが、生徒の「できた!」と一緒に喜べる瞬間や、一緒に笑顔になれる瞬間が何度もあり、その度に「特別支援学校の教員になってよかった」と実感しています。また、音楽の授業で教えた曲を生徒が休み時間に口ずさむ様子が見られたとき、これからは頑張ろうと励まされました。

このように充実した教員生活を送ることができているのは、常に気掛けてくださる周りの先生方のおかげです。一人で考え込み、焦ることもありますが、困っているときに相談に乗ってくださったりアドバイスをいただけたるため、安心して仕事に向き合うことができています。

まだまだ未熟な部分も多く、生徒や先生方から支えられてばかりですが、生徒ひとりひとりの成長を支えることのできる教員になれるよう、主体的に学び続け、私自身も成長していきます。

～ 教頭として新たなスタート ～ 福間 圭三 (H12年卒・奈留高校 教頭)

本年4月より奈留高校の教頭として赴任いたしました。実は私は、平成17年4月から平成22年3月までの5年間、教員として奈留高校に勤務しており、約20年ぶりに奈留島へ戻ってまいりました。赴任して改めて感じるのは、海の美しさと地域の皆様の温かさです。学校教育にも大変協力的で、日々多くの支えをいただいています。再びこの地で働けることを大変うれしく思っており、奈留島に戻ってきて本当に良かったと感じています。当時の教え子の何人かとも再会し、小中学生の保護者となった姿に時の流れを実感するとともに、懐かしい思い出話を花を咲かせています。

奈留高校は全校生徒25名の小さな学校であり、離島留学制度により島外から16名の生徒を受け入れています。Eアイルランドスクールをテーマに英語教育の充実を図るほか、小中高一貫教育や県内唯一の給食にも取り組んでいます。教頭として日々の業務に向き合う中で多くを学んでおり、特に先生方の困り感には丁寧に耳を傾け、迅速に対応することを心掛けています。今後も生徒指導や教育相談について研鑽を重ね、様々な課題に適切に対応できる力を身に付けながら、より良い学校づくりに尽力してまいります。



～ 教頭になって ～

松本 隆男 (H5年卒・大草小学校 教頭)

「ただいま!」。着任式のステージ上、全校児童へ最初に語りかけた言葉です。きょとんとしていた子供たちも、もう一度「ただいま!」と言うと「おかえりなさい!」と元気な声を返してくれました。

2年ぶりの大草小学校は、全校児童33名が家族のように温かい小規模校です。転出の際は名残惜しく思いましたが、まさか新任教頭として戻って来られるとは思っていませんでした。ある児童が「松本せ…教頭先生って言わね」と話しかけてくれた際、思わず「松本先生でかよ」と笑みがこぼれました。以前は眉間にしわを寄せていた自分の表情が、柔和になっているのを感じます。

最初の2か月間は、これまで経験してきた教諭職とは勝手が異なり、要領が得ず大変な日々でした。しかし、少しずつ余裕が生まれ、ようやく自分らしさを出せるようになってきました。

現在の本校は若い先生が多く、複式授業の指導法などに悩む姿も見られます。教職34年目を迎え、ゴールも見えてきました。残りの教職人生は、これまで諸先輩方からいただいたご指導への恩返しです。複式学級の担任経験など、培ってきた経験を存分に還元しながら、教頭としての職務に全力で邁進してまいります。



～ オール福田で一步前へ ～

畔崎 洋一 (H元年卒・福田中学校 校長)

現在、私は長崎市立福田中学校で勤務しています。福田中学校は、海と山に囲まれた自然豊かな学校です。私にとっては二度目の勤務となります。以前勤務していた頃にお世話になった保護者の方々が、今では地域の役員として学校を支えてくださり、当時の教え子たちが保護者となって学校を訪れることもあります。時の流れとともに、人と人とのつながりのありがたさを感じながら、毎日楽しく勤務しています。

今年度は「オール福田～一步前へ～」を合言葉に、生徒、教職員、保護者、地域が一つになった学校づくりを進めています。校長という立場になり、学校は多くの人

の思いや支えによって成り立っていることを、これまで以上に感じるようになりました。また、校長の仕事は学校を動かすこと以上に、教職員が力を発揮できる環境をつくり、生徒一人一人の成長をみんなで支えることなのだと感じています。

長崎大学で学び、仲間と語り合った日々は、今も私の原点です。これからも出会いやつながりを大切にし、目の前の生徒や教職員とともに悩み、笑いながら、「一步前へ」と歩み続けていきたいと思います。



～ 楽しい学校を目指して ～

川口 洋一 (H6年卒・紐差小学校 校長)

私の夢は、「笑顔あふれる、楽しくていきがいのある学校」をつくることです。子どもが「この学校で学べてよかった」、職員が「この学校で働けてよかった」、保護者が「この学校に通わせてよかった」、地域が「この学校があってよかった」と思える学校です。

「楽しい学校」をつくるためには、学校・家庭・地域が協働することが大切です。それぞれの立場で子どもとの関わり(活動)を実践・改善していくことこそ、「楽しい学校」につながります。だからこそ、私は機会があるごとに職員・保護者・地域に「楽しい学校」についての私の熱い思いや願いを伝えるように努めています。

紐差小学校区では、子どもたちのために「スポーツ大

会」や「通学合宿」などの行事が継続して行われています。

PTA活動では、「いちご狩り」や「防災サマーキャンプ」などの学年レクリエーションがあり、子どもたちの笑顔がたくさん見られました。

学校では、子どもたち自らが企画した縦割り班における「校内ウォークラリー」を実施し、楽しい時間を過ごしました。

「よってたかって子どもと関わる」体制をつくることで、「楽しい学校」を目指す所存です。



学生の声

～大学に入学して～

長崎大学教育学部小学校教育コースに入学してから、もうすぐ半年になります。半年の間に生活環境が大きく変わりましたが、家族や友人に支えてもらいながら、授業だけでなく、セミナーやボランティア活動に参加したり、アルバイトをしたりして充実した生活を送ることが出来ています。

教育学部では、日本各地から集まった「教育について

蒲原 凜子 (小学校教育コース1年)

学びたい」という同じ興味を持った仲間と出会ったことが、とてもうれしいです。授業では、教師のすごさを感じ、「自分は教師に向いているのか」という自分への自問自答が尽きませんが、4年かけて向き合っていきたいです。これから4年間、共に学ぶ仲間と成長していきたいと思っています。



～大学に入学して～

長崎大学に入学し、これまで以上に自由で、充実した毎日を送っています。自分で選択し、行動することで新しい経験を積み、多くの人との出会いを通して視野を広げられるのが大学の魅力だと感じています。私の将来の目標は、小学校教師になり、子どもたちとの信頼関係を築き、一人ひとりの居場所をつくれるような教師になることです。そのため、長崎大学のボランティア活動や留

辻 嘉乃 (小学校教育コース1年)

学支援課などの豊富なネットワークを活用したり、授業課題やサークル、アルバイトにも積極的に取り組んだりしたいと考えています。仲間と切磋琢磨しながら日々の学びを大切に、さまざまな経験を積みみたいです。自信をもって教師になれるよう努力していきたいと思っています。



～キャリア支援セミナーを受講して～

今回のキャリア支援セミナーを受講し、不登校問題を通して、これからの教師に求められる姿勢について考えることができました。不登校は年々増加し、過去最多を更新していることから社会全体で向き合うべき重要な問題だと感じました。また、その背景にはいじめや人間関係だけでなく、自信のなさなど様々な要因があり、明るく元気な子どももいることを知りました。不登校を家庭

野田 香菜乃 (小学校教育コース1年)

だけの問題とせず、学校とフリースクール等が連携し、スモールステップで子どもを受け止めることが大切だと学びました。私も様々な経験を通して想像力を養い、すべての子どもがどんな場所でも安心して学べるよう、全力で支えられる教師になりたいです。



～教採セミナーを受講して～

教採セミナーでは、様々な先生からたくさんのアドバイスをいただきました。その中で私は自分の長所や個性をしっかりと伝えることの大切さを学びました。面接調査票を書くときに最初は良い評価を取ることをばかり考えてありきたりな言葉でまともなようにしていました。しかしそれだと自分の本当の良さをわかってもらえないと先生から助言をいただきました。先生と一緒に面接で伝えることを考えていく中で、自分の強みやこれまでの経験をたくさん掘り起こすことができました。それを踏まえ

渡部 純 (小学校教育コース4年)

て面接の練習を重ねながら、自分にもっと自信をつけることができました。結果、本番の面接では自分のベストを尽くすことができました。

面接は今まであまり得意ではありませんでした。先生方の優しいご指導により少しずつ克服することができました。教職の仕事に就いたら、今度は自分から子どもたちの良さを引きだせるように頑張りたいです。



～教採セミナーを受講して～

教採セミナーでは、教員採用試験に向けた対策をしていただきました。面接調査票の添削では、内容をより良いものに添削していただいただけではなく、私が大切にしている思いを先生方が対話を通して引き出してくださり、自分自身の教育観を見つめ直す貴重な機会を与えてくださいました。面接練習では、答え方や立ち居振る舞いなど、本番を想定した練習を通して、教員採用試験へ

藤田 侑希 (中学校・英語コース4年)

の自信を持つことができました。また、これまでの経験を基に、多角的な視点から質問を投げかけてくださったことで、自身の考えをより深め、広げることができました。先生方の温かいご指導により、本番では自身の思いをしっかりと伝えることができました。ご指導いただき、誠にありがとうございました。



～教採セミナーを受講して～

教員採用試験セミナーでは、玉園同窓会の先生方から面接調査票の添削、個人面接、課題面接、通しでの面接練習のご指導をいただきました。

このセミナーを受講する前は、二次試験で面接官に印象のいい言葉や、小手先のテクニックを習得しようという正直甘すぎる考えを持っていました。しかし、玉園同窓会の先生方との対話を通して自分自身の過去を見つめなおし、教師を志したきっかけや、自分の「原点」を明確にすることができたと感じています。

竹村 陽人 (小学校教育コース4年)

その原点をもとに、「自分がどんな教師になりたいのか」、「どんな子どもになってほしいのか」といった自分の教育に対する熱い思いも明らかにすることができました。そして、様々な経験をされてきた玉園同窓会の先生方の貴重なご意見やご指導をいただけたことが、何よりもの財産です。

長崎大学教育学部、そして玉園同窓会の皆様、この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



母校だより

教育学部長 藤本 登

今年も酷暑の中、皆さんはいかがお過ごしであろうか。3月にとある学会のシンポジウムで長崎北高卒の気候変動研究者のミニ講演をお聞きした。この方は第46回の猿橋賞を受賞されるなど、近年注目される研究者で、イベント・アトリビューションという手法を用いて、地球温暖化が異常気象（豪雨など）に与える影響を数値化・分析する中で、西日本豪雨などの具体的な気象現象について、温暖化がその発生確率をどれほど高めたかを科学的に明らかにしている。その研究によれば、やはり近年の異常気象の中には地球温暖化の影響がないと統計確率的に説明できない現象としてとらえられていて、米国をはじめとする指導者に認知してほしい情報である。この成果も情報・データ処理技術の進展のおかげであり、AIの進展とも呼応するところである。新聞報道でも目にするデーターセンターの増築・稼働は日本のエネルギー消費の減少傾向を増加傾向に反転させ、電力インフラや制度の整備は進むものの、学生をはじめとする国民には情報が届いていない状況がある。本学が進めるプラネタリーヘルスの一環で、本年度から2年生を対象に「教育と未来」という必修科目も新たに始まった。保健・社会・国語・技術・家庭・特別支援の教員が、学校、自然科学や環境、平和、権利、マイノリティ等のテーマで、未来の学校教育を学生と共に考える内容である。他の講義を含めたレポートの内容から、学生に夢と希望を与え、自己肯定感を高める努力を教員個人・組織として続ける必要を感じている。

ところで、今年の教員採用試験、長崎県の3年生受験も2年目を迎えて学生にも認知されてきた。しかし、3年生受験の合格者の中には逆に教職に対する戸惑いを持つ者もあり、新たな就職支援の課題が見えてきた。また10月から始まる教員採用試験の特別講座を3年生受験もあるために2年生にも対象を広げているが反応は鈍い。この4年間の教員合格率は67.9%であり、第5期中期計画・目標で65%（第4期に比して2%up）を掲げる私たちとしては心もとないが、今年も玉園同窓会をはじめとする教職アドバイザーや多くの教員のおかげで、例年並みの合格状況になるのではないかと予測している。合格者の中にも公務員や企業に流れる者もあり、教職セミナーによる教員志望者の確保を進めつつ、予測困難な時代だからこそ、教職の魅力を内外にしっかりと伝える努力を続けたい。

今年も福島県川内村の小中学園の6年生12名の訪問を受けた。これは、平成23年の東日本大震災とそれによって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所事故による放射線による被害への支援活動の

一環として平成25年度から取り組まれている「復興子ども教室」の長崎研修である。今年は今まで以上に復興・街づくりに焦点を当てた研修として、昨年と同様に平和公園等の訪問や附属小学校での交流授業や平和集会への参加を行い、加えて南山手地区・出島・稲佐山訪問と龍踊部による演舞と体験を行った。2年生8名がガイド役を務め、互いに学び多い研修となった。開催期間中は教育学部の原爆慰霊祭も執り行われたが、今年は師範学校教授兼学生課長兼寮監長であった増本郁夫先生のご子息の参列を得て、お言葉も頂いた。被爆81年になり、色々な方々から問い合わせも増えてきた。玉園同窓会をはじめ、郷土史・教育史に詳しい井手弘人准教授にご助言いただきながら、丁寧に対応している。是非、同窓生の皆さまの中で、被爆・平和教育につながる情報等があれば、ご相談や寄贈をお願いしたい。



復興子ども教室事業（龍踊体験）

現在、第5期に向けた附属学校及び学部改革の検討が進められている。国は子どもの減少対応と個性化を主眼とした改革を求めているが、大学の理念と地域に根差した教員養成を確立するため、内外と連携しつつ創意工夫を検討したい。

最後に、昨年度末で三上次郎教授（作曲）が定年退職を、高橋浩二准教授（体育哲学）、吉良史明准教授（国文学）、杉本佳弘助教（幾何学）が退職を、附属幼稚園高田敏彦園長が異動された。今後の人生が豊かで幸多きことを願う。そして今年度は、浜野正浩教授（代数学）、板橋克美准教授（理科教育）、浜崎泰准教授（特別支援教育）と、附属幼稚園に長郷志保園長が着任された。また2月に准教授昇進1名（湯立准教授（心理学））があった。これらの先生方が個性を発揮し、教員や学生、附属学校や地域教育界とハーモニーを奏で、新たな学部や大学院、そして附属学校を創ってもらいたい。

令和 8 年度 総会 報告

日時：令和 8 年 6 月 28 日（日）10 時 30 分～
場所：桜町小学校内地域・学校交流センター

全ての議案について、全会一致で承認された。
なお、会計報告及び予算案は、次頁に掲載。

第 1 号議案 令和 7 年度事業報告及び会計報告

- 1 会員の確認・報告について
 - (1) 教育学部入学生に入会案内状配布（180部）
入会者 86 名
 - (2) 現職退職者のいる学校等へ終身会員への入会案内メールを送信した。入会者 7 名
- 2 総会・理事会の開催について
 - 総会：6 月 22 日（日）桜町小地域・学校交流センター
 - 理事会：12 月 13 日（土）教育会館 3 F 大会議室
- 3 会報の発行（155 号、156 号）について
 - 155 号：令和 7 年 10 月 1 日発行
 - ・新人特集、総会報告、収支決算・予算、母校だより、事務局だより 他
 - 156 号：令和 8 年 3 月 1 日発行
 - ・実践報告、現職教員の声、県外からこんにちは、私も頑張っています！、母校だより、事務局だより 他
- ※カラー横書き
- 4 教育学部との連携事業について
 - 原爆慰霊祭（令和 7 年 8 月 9 日）
 - 玉園賞（優秀学生表彰）授与
- 5 公益事業の充実について
 - 学校図書購入助成事業（小学校 1 校、中学校 1 校、高等学校 1 校、特別支援学校 1 校）
 - 児童・青少年育成事業
 - ・3C Active Teachers 長崎
 - 修学・就業支援事業（対象：教育学部生）
 - ・キャリア支援セミナー（1・2・3 年生対象）開催
 - ・教員採用試験対策セミナー・赴任直前セミナー（4 年次対象）開催
- 6 地区懇談会の実施について
 - コロナ禍等での中断があり、会の在り方など検討を継続する。

第 2 号議案 令和 8 年度事業計画(案)及び予算(案)について

- 1 総会・理事会の開催について
 - 総会：6 月 28 日（日）
地域・学校交流センター：桜町小
 - 理事会：教育会館 3 F 大会議室
12 月 12 日（土）予定
- 2 会報の発行（157 号、158 号）について
 - 157 号：令和 8 年 10 月 1 日発行予定
 - 158 号：令和 9 年 3 月 1 日発行予定
- 3 教育学部との連携事業について
 - 原爆慰霊祭
 - 玉園賞（優秀学生表彰）授与
- 4 公益事業について
 - 修学・就業支援事業（対象：教育学部生）

- ・キャリア支援セミナー（1 年生対象、2 年生対象、3 年生対象、4 年生対象）

- ・教員採用試験対策セミナー（4 年生対象）

- 学校図書購入助成事業（4 校程度募集）

- 児童・青少年育成事業（募集）

5 玉園同窓会地区懇談会について

- 対象や開催方法の検討を継続。140 周年にちなみ、総会終了後に懇談会を実施。

6 事業の改善と効率化について

- 県内学校や教育機関への総会案内等の電子化を推進。

第 3 号議案 役員改選について

- 今回の役員改選は、任期満了に伴う役員改選である。（詳細については別記）

第 4 号議案 細則の見直しについて

- 同窓会細則第二条について

（幹事および専門部会）

第二条 定款第 4 条の事業と本会の運営を円滑に推進するため、会長は幹事を委嘱し、専門部を置く。

- 3 幹事の任期は 2 年とし、再任することができる。

- 4 各部会は、事務局長のもと、事務局所属の幹事と部会長が主宰する。

- 同窓会細則第三条について

条文はそのまま、残す。ただし、欄外に次の通り、追記を加える。

※諸般の事情により、第三条については、当分の間、次のように取り扱う。

- ・地区委員・地区長は置かない。
 - ・県立学校や附属学校は、可能な範囲で校長が理事として運営に参画する。
 - ・会員相互の親睦を図る懇談会は、不定期な形での実施を模索する。
- （令和 8 年 6 月理事会で決定、総会にて承認を受ける）

第 5 号議案 その他

役員紹介

役職	氏名	役職	氏名
顧問	藤本 登	法人理事	道越貴代美
〃	小田 恒治	〃	平元 隆久
参与	山崎 滋夫	〃	木村 国広（副会長）
〃	藤木 卓	〃	徳川 敬文
〃	池田 浩	〃	本多ひとみ
法人理事	中川 幸久	監事	池田 敏彦
〃	野中 光治	〃	川本 哲也
〃	上西 誠		
〃	森 浩司		
〃	青嶋 秋男		
〃	田中 昭二		
〃	森内 秀学		
〃	刈山 弘全		
〃	倉田 伸		
〃	安部 和隆		

事務局

会長	安部 和隆
事務局長	青嶋 秋男
事務局員	徳川 敬文
事務局員	上西 誠

令和7年度 収支計算書・令和8年度 収支予算書

令和7年度 収支計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	500,000	350,000	-150,000	入学者70名
2. 会費収入	1,800,000	1,624,000	176,000	
3. 雑収入	490	1,225	-735	
4. 繰入金収入	2,243,691	1,950,000	293,691	
当期収入合計 (A)	4,544,181	3,925,225	618,956	
前期繰越収支差額	-512,981	-512,981	0	
収入合計 (B)	4,031,200	3,412,244	618,956	
II. 支出の部			0	
1. 事業費	1,758,200	1,909,324	-151,124	
2. 管理費	2,173,000	2,178,644	-5,644	
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
4. 予備費	0	0	0	
5. 繰入金支出	100,000	0	100,000	退職積立金特別会計へ
当期支出合計 (C)	4,031,200	4,087,968	-56,768	
当期収支差額 (A)-(C)	512,981	-162,743	675,724	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	0	-675,724	675,724	

令和8年度 収支予算書 (案)

令和8年4月1日から令和9年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	500,000	500,000	0	入学者 100名
2. 会費収入	1,750,000	1,800,000	-50,000	
3. 雑収入	1,225	490	735	
4. 繰入金収入	2,765,199	2,243,691	521,508	
当期収入合計 (A)	5,016,424	4,544,181	472,243	
前期繰越収支差額	-675,724	-512,981	-162,743	
収入合計 (B)	4,340,700	4,031,200	309,500	
II. 支出の部				
1. 事業費	1,919,200	1,758,200	161,000	
2. 管理費	2,371,500	2,173,000	198,500	
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
4. 繰入金支出	50,000	100,000	-50,000	退職積立金特別会計
当期支出合計 (C)	4,340,700	4,031,200	309,500	
当期収支差額 (A)-(C)	675,724	512,981	162,743	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	0	0	0	

事務局だより

事業等の報告

<140周年記念懇談会>

◎令和 8 年 6 月 28 日(日)、総会終了後に 140 周年記念懇談会を行いました。県内在住の会員をはじめ、熊本から参加した会員が「健康体操」などの紹介も行い、同窓会の親睦を深めることができました。



<玉園教師塾>

◎教採セミナー（4 年生対象）について

- 日時：5 月 25 日(月)～7 月 30 日(木)
月曜～木曜日 39 日間
- 内容：面接、模擬授業、
小論文への対策
- 受講者数：のべ 973 人



◎キャリア支援セミナー（1 年生対象）について

- 日時：令和 8 年 7 月 2 日(木) 16:20～17:40
- 会場：長崎大学教育学部 31 番教室
- 参加対象：玉園同窓会学生会員（新 1 年生）
- 内容：子育て支援及び
不登校への対応
- 講師（外部講師として
依頼）：



的野 郁美氏（N-school 子育て支援教室
mahana 代表）

赤城 理恵子氏（長崎大学キャリアセンター
専門職員）

<教育学部原爆慰霊祭>

◎令和 8 年度の教育学部原爆慰霊祭は、晴天に恵まれ、教育学部原爆慰霊碑の前で行いました。

- 日時：令和 8 年 8 月 9 日(土) 10 時 58 分～
- 場所：教育学部原爆慰霊碑前

（式次第）

- 一 藤本学部長のご挨拶
- 二 黙祷
- 三 安部玉園同窓会長の慰霊のことば
- 四 増本郁夫先生ご子息のことば

関係のみなさま、お世話になりました。



会費納入のお願い

県内外の一般会員の皆様、県内現職会員の皆様、先生方から納めていただいている 1,000 円の会費が、本会の大切な運営資金となっております。

現職の先生方は、貴校の学校代表者の先生を通して納入いただきますよう、よろしくお願いいたします。

一般会員の皆様は、同封しております振込用紙にて納入をお願いします。

お知らせ

60 歳～になられる県内現職会員のみなさまは、終身会員になることで、①母校で教職等を目指す後輩の支援をはじめとして、②会報「たまぞの」の発行、③学校への図書購入助成、④青少年健全育成助成等へ参画することができます。

母校及び後輩のよりよい未来のために、どうか終身会員への入会をお願いいたします。

終身会員入会費：5,000 円

入会フォーム



※亡くなられた会員がいらっしゃいましたら、お手数ですが、ご家族から事務局へお知らせください。

玉園同窓会ホームページ

<https://tamazono.net/>

玉園同窓会

YouTubeチャンネル



事務局へのご連絡

- ・電子メール：inf@tamazono.net（常時）
- ・電話・fax：095-824-5494（以下の時間帯）
曜日：火曜日、金曜日
時間：10 時～14 時 30 分

※不定期にお休みすることがあります。

題字：青嶋秋男